

大阪湾再生行動計画「概要版」

平成 16 年 3 月 26 日
大阪湾再生推進会議

. 行動計画策定の背景と位置付け

都市の魅力と国際競争力を高めるため自然と共生した都市再生が必要
都市再生プロジェクト（第三次決定、H13.12）に「海の再生」が位置付け
H15.7.28、関係省庁及び関係地方公共団体等が「大阪湾再生推進会議」を設置し、大阪湾再生の行動計画策定に向けた取り組み

. 大阪湾の水環境の現状

社会経済活動の発展に伴い浅海域や自然海岸は大幅に減少
市民が海とふれ合う親水空間や生物多様性確保に重要な干潟や藻場が喪失
閉鎖性海域で、陸域からの窒素、リンの流入等により富栄養化が進行
赤潮発生など海域でのCODの内部生産により特に湾奥部の水質汚濁が慢性化
夏季に大規模な貧酸素水塊の発生
湾奥部から東部海域を中心に水産生物などの生物生息に多大な影響
浮遊・漂着・海底等のごみ、住民のパブリックアクセスの制約や埋立地の未利用地の問題
大阪湾全体の環境保全上重要な問題

. 大阪湾再生に向けての目標

1. 目標の設定

大阪湾再生に向け、関係省庁及び関係地方公共団体等が連携して改善に取り組む
中長期的な大阪湾の水環境のあるべき姿として、次のような目標を掲げる

～ 目 標 ～

森・川・海のネットワークを通じて、
美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにわ）の海」を回復し、
京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する

残された貴重な自然環境の保全を図りつつ、陸域の汚濁負荷量の削減、海域の浄化対策など、海の水質改善を図り、多様な生物が生息する健全な生態系を回復し、美しく親しみやすい水環境となるよう、森・川・海のネットワークを通じて総合的な取り組みを図る これらより、自然と共生した京阪神都市圏として世界的にも市民の誇りとなる魅力ある大阪湾を目指す
目標が本行動計画の実施で、どの程度達成されるか判断するため大阪湾全体に共通の具体的な目標及び指標について、「多様な生物の生息・生育」、「人と海との関わり」の観点から、「質の改善」及び「場の整備」として設定

表-1 大阪湾再生に係る具体的な目標及び指標

具体的な目標	指標
年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	底層D0 ・5mg/L以上（当面は3mg/L以上）
海域生物の生息に重要な場を再生する	干潟、藻場、浅場等の面積 砂浜、磯浜等の延長
人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	表層COD ・散策、展望：5mg/L以下 ・潮干狩り：3mg/L以下 ・海水浴：2mg/L以下 ・ダイビング：1mg/L以下
人々が快適に海にふれ合える場を再生する	自然的な海岸線延長
臨海部での人々の憩いの場を確保する	臨海部における海に面した緑地の面積
ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ

必要に応じ、大阪湾全体に共通した具体的な目標や指標とは別に、個別エリアについて、特性に応じ具体的な目標及び指標を設定

2. 重点エリア

大阪湾再生の目標は大阪湾全体での達成が望ましく、大阪湾及びその集水域全体での取り組みが必要
このうち、水質汚濁の状況、親水性などを考慮しつつ、再生への課題が多く、かつ改善する点が多い（概ね神戸市須磨区～大阪府貝塚市の範囲）を特に重点的に再生を目指す「重点エリア」と設定



図-1 重点エリア

3. 計画期間

平成16年度から10年間を計画期間とする

・ 目標達成のための施策の推進

1. 施策の推進方針

目標達成のため、国及び地方公共団体が広域に連携し、大阪湾の集水域及び海域で各種の改善施策を行い、効果の的確な把握のためモニタリング施策を行う施策実施に当たり、大阪湾再生の目標達成はもとより、下記事項に留意が必要
残された貴重な自然環境の保全を図る
防災や魅力ある国際都市としての社会経済活動との調和に配慮する
関係行政機関だけでなく、住民・市民やNPO、学識者、企業等の多様な主体の連携により進める
環境学習の場としても機能するよう配慮する

2. 陸域負荷削減施策の推進

水質総量規制制度による各府県総量削減計画の着実な実施、事業場の総量規制基準の遵守の徹底、第6次総量規制の検討
総合的な負荷削減に向け、雨天時等流出負荷や面源汚濁負荷を含めた負荷削減に関する調査を、関係機関等連携で実施
効率的に環境基準等の目標を達成するため、新たに排出枠取引など経済的手法の適用を含む集水域全体の費用負担の方法について検討

(1) 下水道事業、農業集落排水事業、浄化槽整備事業

下水道の普及促進及び高度処理化（4処理場供用開始、23処理場高度処理化）
合流式下水道緊急改善事業の実施（ろ過スクリーン設置、貯留、消毒施設整備等）
下水放流水路等での水生植物の水面栽培など、窒素、リンの吸収・吸着等、放流水の水質改善の検討（南大阪湾岸流域下水道北部処理場で実証実験中）
農業集落排水施設の整備促進、既存施設の機能強化、高度処理の促進
既存の単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換の促進、窒素及びリンの除去性能を有する高度処理型浄化槽の整備の促進

(2) 河川浄化事業、森林整備事業

河川浄化施設による浄化（大和川水系、寝屋川水系、檜井川など）
浄化浚渫による有機汚濁対策（寝屋川水系、石津川、檜井川など）
河口干潟などの保全・再生（河口干潟：近木川など）
保安林指定の拡大、治山事業や森林整備事業の計画的な実施
ボランティア活動などを含む多様な主体が参加・協力した森林整備の推進
公共土木工事で間伐材利用、水質浄化材で木炭・竹炭利用「森・川・海が連携した」森づくりの取り組み

(3) 関連事業、陸域負荷削減以外の施策

面源汚濁負荷削減のため、流出負荷の浄化や、貯留浸透施設の設置等による流出抑制を実施

散水や水洗トイレの洗浄水等に下水の高度処理水を活用、また、市民に見える形で高度処理水をせせらぎや池に放流するなど有効活用

都市再開発等と連携一体化した汚濁負荷流出削減施設の整備等、大阪湾にやさしい都市構造構築を進める

市民活動等連携で清掃活動推進、ごみの種類分類、発生源ごみ削減基盤づくり
ダイオキシン類については、大阪市内河川や大阪港中心に底質浄化対策計画検討、浄化事業の早期かつ効率的推進

河川水質事故の取り組みでは、水質事故発生時の管理体制のさらなる充実

3 . 海域における環境改善対策の推進

(1) 水質の改善

覆砂と薄層浚渫の技術開発、底泥有効活用、底泥への硝酸カルシウム添加による微生物活性化など微生物利用検討（堺 2 区北泊地で実証実験実施中）

海峡部の強潮流利用の流れ制御、透過型防波堤へ改良、浮体式施設での流況改善検討等、海水の停滞性解消に流況制御等の水質浄化技術の開発推進

既存構造物の表面の空隙を増加させる改良や潮間帯を設ける改良等、コンブ養殖パネルの直立護岸への設置（浜寺水路で実証実験実施中）等の検討

赤潮を処理するための海洋環境整備船を活用した装置開発等の検討

海洋環境整備船で回収された流木竹炭を利用した海水浄化の検討

(2) 多様な生物の生息・生育

藻場・干潟など浅海域の整備（尼崎臨海地区、堺泉北港堺第 2 区：人工干潟・浅場、神戸空港：人工ラグーン等、大阪港夢洲等：砂浜や磯浜）

森・川・海を一体的に捉え、多様な主体による豊かな海を育む森づくりの推進、臨海部の海藻草類の生育に必要な養分等を供給する森の整備

既存護岸、岸壁、防波堤等の直立人工構造物に生物多様性確保の環境改善機能付加、新たな整備の場合、当初から環境改善機能を付加（ポートアイランド、新人工島及び西宮防波堤等で先導的取り組み推進）

(3) 親水性の向上

臨海部の親水性の高い交流拠点や公園緑地の整備（ポートアイランド西緑地、堺泉北港堺旧港、大阪港夢洲等：砂浜や磯浜の整備、神戸空港：人工ラグーン等、尼崎臨海地区、堺第2区、堺第7 - 3区：海辺空間としての緑地の整備）企業等協働視野に、低・未利用地活用緑化促進などパブリックアクセス向上快適な海辺空間形成に、美しい国づくり政策大綱に基づき総合的に取り組む海辺空間の象徴「なぎさ海道」での「なぎさ海道ウォーク」などの活動の推進

(4) 浮遊・漂着・海底ごみの削減

「大阪湾クリーン作戦」や「魚庭（なにわ）の海づくり活動」、南港野鳥園、阪南市福島海岸等での「港湾・海岸美化活動」などの河川、海域における住民、NPO、企業などが実施しているあらゆる美化活動と連携、発展させ投棄ごみの削減が目的の環境広報活動等
ごみ回収効率向上に、精度の高い浮遊ごみ分布予測システム構築、回収履歴データベース化検討、河口部の浮体式流況改善施設を活用のごみ散乱防止検討
海底ごみ回収は、漁業者の協力を得ながら大阪湾全域を対象に回収活動の推進
大阪湾再生の市民への関心を高め、地域住民とNPO団体等の連携（アドプト制度等）などにより定期的に清掃活動を実施
海域への流出油等は、生態系に著しい影響を及ぼすため、関係機関と連携の下に、海洋環境整備船等による迅速な回収を今後とも確実に実施

4 . 大阪湾再生のためのモニタリング

(1) 環境監視のためのモニタリング

効果的かつ効率的なモニタリングを実施するため、関係機関が連携したモニタリングの実施体制を検討
各種環境改善施策の目標を視野に入れたモニタリングの内容充実（特に、生物に被害を及ぼす貧酸素水塊の発生状況を的確に把握するDOのモニタリングの充実）
沿岸・河口域の流れ等の海況モニタリングの推進（第五管区海上保安本部）
瀬戸内海総合水質調査で新たに底生生物モニタリングを実施、及び水温、塩分等の連続観測、詳細な環境調査が実施できる海洋環境整備船の導入に取り組む（国土交通省近畿地方整備局）
市民、NPO等多様な主体と連携した生物及び海域空間の利用実態等のモニタリング検討

(2) 環境改善施策の効果の把握等に係るモニタリング

主に各種施策を講じるアピールポイント付近対象に、施策効果が期待できる環境指標、市民にわかりやすい指標等モニタリングの実施（親水性の向上に係る環境改善施策の効果に対する市民実感度等、人々の快適性に係るモニタリング）アピールポイント付近のモニタリング結果だけでなく、行政機関・市民参加のモニタリング結果広く収集、様々な視点の市民に解りやすい環境改善効果発信

(3) 市民参加によるモニタリング

市民参加モニタリング活動を将来にわたり円滑促進に、行政機関、学識経験者、NPOなど連携実施体制整備、NPO、市民モニタリング活動支援方策検討りんくうタウン周辺ボランティアダイバーでの海底環境調査実施、大阪湾沿岸釣り人釣果モニタリング実施など、環境改善施策効果を市民とともに把握ごみ種類判別方法統一など、森・川・海一体の体系的活動促進、海洋環境保全推進週間、みなと総合学習、海洋環境教室、河川及海浜清掃、海底ごみ展示など海洋環境保全指導・啓発活動を継続実施、市民の大阪湾水環境保全意識高揚

(4) 大阪湾における汚濁機構をより詳細に解明するためのモニタリング

行政機関・学識経験者等連携調査体制整備、現象解明に必要な既存データ解析及調査・研究推進
貧酸素水塊調査（国土交通省近畿地方整備局）の充実、汚濁機構解明に必要なモニタリング手法や体制検討
水質汚濁機構解明に、底泥からの栄養塩溶出や沿岸域の地形改変などの影響考慮した水質シミュレーションモデル開発（環境省）

(5) 情報の共有化及び発信

多くの機関が実施のモニタリングデータを有効に相互利用するため、大阪湾環境データベース(国土交通省近畿地方整備局：<http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/>) 活用大阪湾再生モニタリング情報・データの一元的集約・管理及び発信
各種モニタリング結果、環境改善施策効果等を市民にわかりやすい形で発信し、関連シンポジウム等で情報提供を通じ広く市民に向け大阪湾環境の情報発信

【主な事業の例 : 「西宮エリア～尼崎エリア」】

(改善後のイメージ)

ウインドサーフィン等のマリレジャーや潮干狩りや散策が快適に楽しめ、多様な生態系のある、阪神間に残された希少な自然海岸
 緑豊かで快適に散策のできる海辺

(主な施策)

流況改善、直立構造物の環境配慮型への改良事業(西宮防波堤)
 尼崎臨海地域の緑化(尼崎21世紀の森[尼崎の森中央緑地])
 下水道の高度処理及び合流改善(武庫川流域、尼崎市公共、西宮市公共、芦屋市公共)
 浮遊・漂着・海底ごみの削減

尼崎21世紀の森のイメージ(尼崎の森中央緑地)



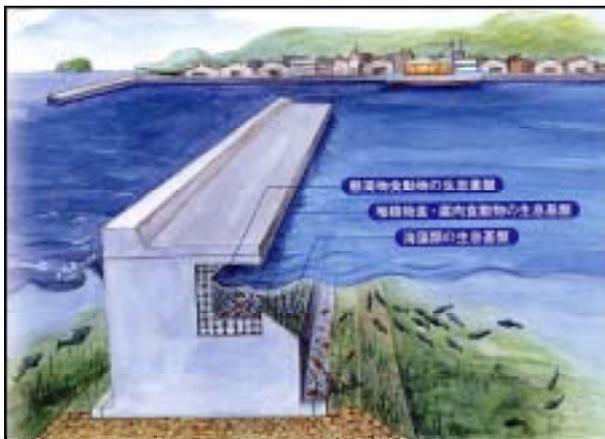
武庫川下流浄化センター



甲子園浜



環境配慮型への改良の例(西宮防波堤)



海洋環境整備船



【主な事業の例 :「堺北エリア～阪南港周辺エリア」】

(改善後のイメージ)

豊かな生態系を育む大和川河口部での干潟の再生
 市民が自然と憩うことのできる海辺と環境学習の場
 人々が自然と快適に憩え豊かな生態系を育む干潟の再生と生物環境学習の場の確保

(主な施策)

人工干潟・緑地整備・暫定緑化(堺2区・阪南2区)
 共生の森事業・漁民の森づくり活動(堺7-3区)
 大和川清流ルネッサンス(大和川上流流域、大和川下流流域の下水道普及促進等、各種河川浄化設備による浄化)
 河口干潟の再生及び堰浄化(近木川河口)
 下水道の普及、高度処理及び合流改善(大和川上流流域、大和川下流流域、南大阪湾岸流域、他)
 浮遊・漂着・海底ごみの削減

人工干潟(堺2区)のイメージ



共生の森(堺7-3区)のイメージ



瀬と淵方式の浄化施設(大和川下流部)



リフレッシュ瀬戸内



上向流接触酸化方式の浄化施設(曾我川)

【実証実験・社会実験の例】

人工干潟創造実証実験（阪南2区）
大阪湾ダイビングスポット社会実験（りんくうタウン沖）
下水処理水の植生浄化実験（南大阪湾岸流域下水道）
コンブ養殖実証実験・社会実験（浜寺水路）

人工干潟創造実証実験



大阪湾ダイビングスポット社会実験



下水処理水の植生浄化実験



コンブ養殖実証実験・社会実験



5 . アピールポイントにおける施策の推進

施策による改善効果を、一般市民が身近に体感・実感でき、かつ、広く一般にPRできる場(実際に施策を行う場所と同義ではない)を「アピールポイント」とし、重点エリア内に限らず、重点エリアの改善や地元住民との連携・協働などの新たな施策手法をPRできる場所に設定

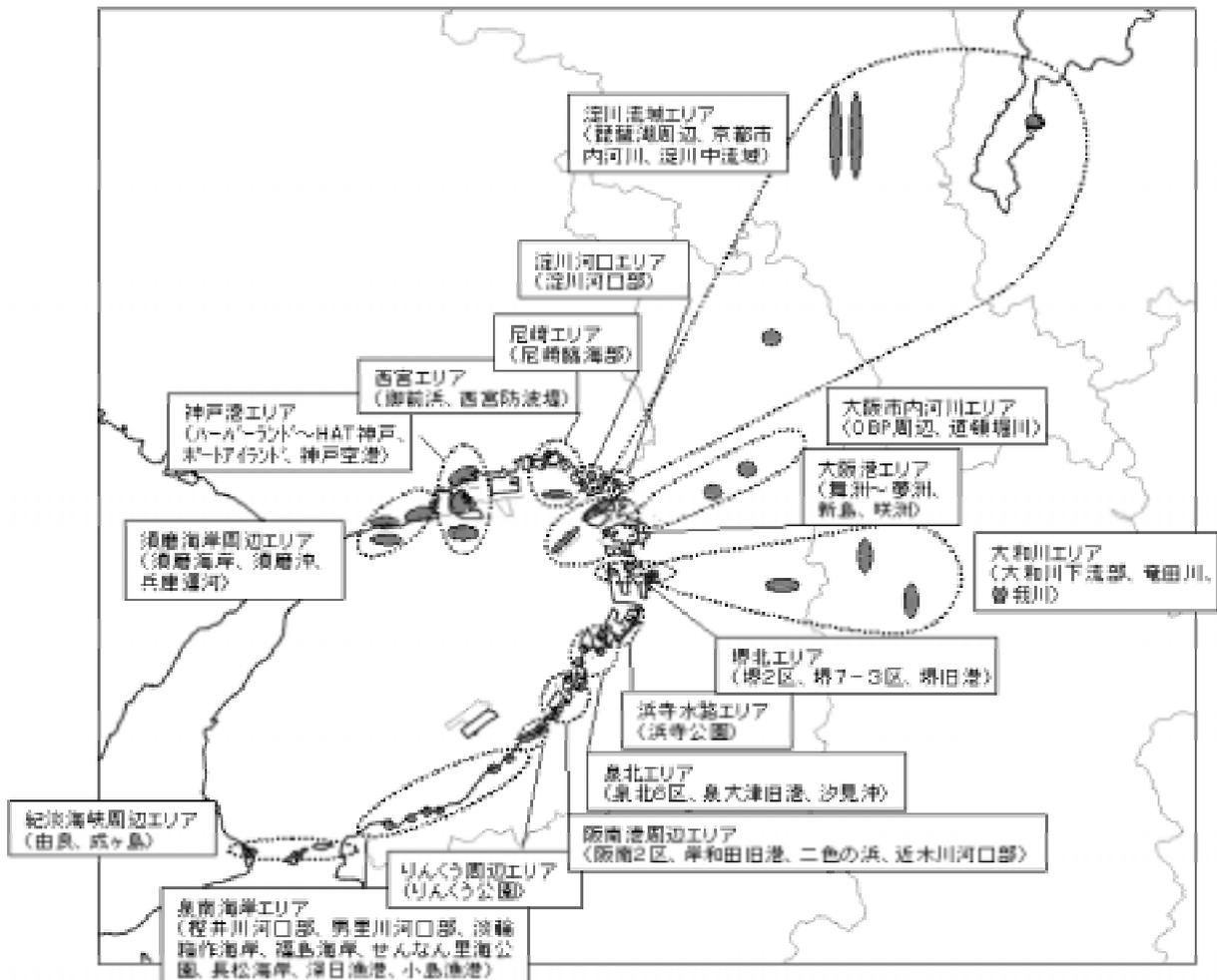


図-2 アピールポイント

表-2(1) アピールポイント毎の改善後のイメージ
 重点エリアの改善に関するアピールポイント

エリア	主な アピールポイント	改善後のイメージ	
須磨海岸周辺 エリア	須磨海岸	海水浴が快適に楽しめるごみのない美しい海辺 泳ぐにふさわしい水質の確保(夏季表層CODの目標2mg/L以下) 利用者の増加	
	須磨沖	藻場等の造成による豊かな海づくり 藻場等の造成面積14ha	
	兵庫運河	快適に市民が散策できる歴史情緒あふれる水辺のにぎわい 散策にふさわしい水質の確保(夏季表層CODの目標5mg/L以下) 利用者の増加	
神戸港エリア	ハーバーランド～HA T神戸	賑わいのある魅力的な都心ウオーターフロント 利用者の増加	
	ポートアイランド	豊かな生き物を育み市民が快適に海とふれあうことのできる海辺 大型藻類による藻場の増加 散策にふさわしい水質の確保(夏季表層CODの目標5mg/L以下) 利用者の増加	
	神戸空港	藻場を中心とし豊かな生き物を育む海 大型藻類による藻場の増加 豊かな生き物を育む人工ラグーン内海や親水護岸での市民の憩いとレクリエーションの海辺 利用者の増加 環境創造の情報発信の拠点	
西宮エリア	御前浜 西宮防波堤	ウインドサーフィン等のマリレジャーや潮干狩りや散策が快適に 楽しみ、多様な生態系のある、阪神間に残された希少な自然海岸 触れる又は散策にふさわしい水質の確保(夏季表層CODの目標3～5mg/L以下) 底生生物の生息環境の確保(夏季底層DO目標3mg/L以上) 海藻の繁茂による窒素(N)、りん(P)の減少、生物多様性の増加	
尼崎エリア	尼崎臨海部	緑豊かで快適に散策のできる海辺 散策にふさわしい水質の確保(夏季表層CODの目標5mg/L以下) 緑地整備29ha(遊歩道、人工海浜等含む)	
淀川河口エリア	淀川河口部 (矢倉海岸など)	矢倉緑地での快適に散策できる水辺 散策にふさわしい水質の確保(夏季表層CODの目標5mg/L以下) 野鳥観察場や干潟での多様な生態系の自然観察	
	淀川流域 エリア	琵琶湖周辺	アオコやカビ臭のない水のきれいな赤野井湾 昭和40年頃の流入負荷量まで削減
		京都市内河川	平常時に水の流れていない西高瀬川の清流復活 人々の親水活動に適した水質レベル(散策・展望:5mg/L以下)を確保する 市民が快適に水と親しめる堀川のせせらぎ再生 合流式下水道から堀川等へ放流される汚濁負荷量の激減。 人々の親水活動に適した水質レベル(散策・展望:5mg/L以下)を確保する。
	淀川中流域 (鶴殿のヨシ原など)	大阪湾への流入負荷量の削減 淀川を經由して陸域から大阪湾に流入する汚濁負荷量(COD)が、下水道の整備などにより現状の約5割程度削減される。	

表-2(2) アピールポイント毎の改善後のイメージ
重点エリアの改善に関するアピールポイント

エリア	主な アピールポイント	改善後のイメージ
大阪港エリア	舞洲～夢洲、新島、咲洲	豊かな生態系を育む自然の海岸線に近い環境の創出 磯場1,830m、干潟・海浜1,700mが増加する。 底生生物から藻類、貝類、魚類、鳥類などが生息する。 住民の環境保全や環境改善への意識向上
大阪市内 河川エリア	O B P 周辺 (寝屋川水系)	市民が快適に憩える水辺 在来の動植物が保全・回復され、水辺の親水性や景観の向上により人々が憩える水質が確保される(BOD5mg/L以下、DO5mg/L以上、SS10mg/L以下)
	道頓堀川	市民が快適に憩える水辺 10年に1回程度の大雨でも、下水道施設から道頓堀川等へ、ごみや汚水の一部を含んだ雨水が流れ出なくなる。 道頓堀川の水質は、現在の道頓堀川よりも水質の良い大川と同程度の水質となる。
堺北エリア	堺2区	豊かな生態系を育む大和川河口部での干潟の再生(生物観察等環境学習の場) 干潟面積約10ha 底生生物の生息環境の確保 二枚貝類、ガザミ等の生息、シギ、チドリ等の飛来 都市再生緊急整備地域での賑わいに合わせた水際線の開放と快適に憩える海辺 緑地面積約3ha、海を眺められる水際線延長約0.7km 公民協力による海辺の立地特性を活かした緑化の推進 平成16年度より順次緑化を推進 散策にふさわしい水質の確保(夏季表層CODの目標5mg/L以下) 底生生物の生息環境の確保(夏季底層DO3mg/L以上)
	堺7-3区	自然とふれあい憩うことのできる海辺と環境学習の場、植栽等の市民活動の場及び環境学習の場 豊かな生態系を形成する大規模な森の創造 緑地面積約12ha、海を眺める水際線延長約1.7km 漁業者による環境保全活動の場 海域環境の改善
	堺旧港	ホテル・商業施設に隣接し歴史情緒あふれる旧堺灯台を生かした海岸線 海と触れ合え、眺めることができる水際線延長約1km
10) 大和川 エリア	大和川下流部、竜田川、曾我川	大和川、竜田川の水質改善 大和川におけるのBOD75%値(観測8地点平均)が、現状(平成14年)6.7mg/Lから5.0mg/Lまで改善され、環境基準を達成する。 竜田大橋での環境基準5mg/Lの達成を目指す。 大阪湾への流入負荷量の削減 大和川を経由して陸域から大阪湾に流入する汚濁負荷量(COD)が、下水道の整備などにより現状より約5割程度削減される。
11) 浜寺水路エリア	浜寺公園	市民が快適に散策できる海辺 公園面積75.1ha 府営公園に隣接した海岸における親水性の向上、生物観察等環境学習の場 コンブ養殖という形で湾奥部海域における水質浄化実験を行い、市民にも目に見え、手に触れられる環境学習を進める。 散策にふさわしい水質の確保(夏季表層CODの目標5mg/L以下)

表-2(3) アピールポイント毎の改善後のイメージ
 重点エリアの改善に関するアピールポイント

エリア	主な アピールポイント	改善後のイメージ
泉北エリア	泉北6区	自然とふれあえ豊かな生態系を育む干潟の再生 野鳥等の観察、植栽等の市民活動など環境学習の場の確保 緑地および干潟面積約7ha、海を眺める水際線延長約0.6km
	泉大津旧港	ホテル・住居等に隣接し、イベント等を通じ海をながめふれあい憩えにぎわいのある海辺
	汐見沖	臨海部での憩いや活動的なレクリエーションができる大規模な空間
阪南港周辺 エリア	阪南2区	人々が自然と快適に憩え豊かな生態系を育む干潟の再生と生物環境学習の場 干潟(面積5ha)における実証実験 二枚貝類、ガザミ等の生息、シギ、チドリ等の飛来 家庭排水やごみ流入量の減少 イベントを通じて住民に大阪湾の環境の現状を知ってもらおうと 共に、海岸清掃や稚魚放流等を通じて環境改善意識の向上。 触れるにふさわしい水質確保(夏季表層CODの目標3mg/L以下)
	岸和田旧港	商業施設、住居等に隣接し、イベント等を通じ海をながめふれあい憩えにぎわいのある育む海辺
	二色の浜	海に親しめる公園 公園面積43.1ha 海水浴が快適に楽しめるごみのない美しい海辺 清掃等の市民活動の場 泳ぐにふさわしい水質の確保(夏季表層CODの目標2mg/L以下)
	近木川河口部	山川海を通じた豊かな生態系を育む近木川河口の干潟の再生 0.4haの河口干潟(汽水ワンド)の再生 地元住民による水辺学習や清掃、植林等の活動を通じて環境改善意識の向上を図る
	(南大阪湾岸流域 下水道)	大阪湾への流入負荷量の削減 下水道普及率59%(H14) 約80%(H26)、高度処理施設整備率(窒素、リン対応)75%(H14) 100%(H26) 植生浄化実験(北部処理場)を小学生やNPOと行うなど、大阪湾の水環境に対する関心を高め、人々が海との関わりを持てる場所となる。

表-2(4) 大阪湾再生行動計画のアピールポイント
 地元住民との連携・協働などの新たな施策手法に関するアピールポイント

エリア	主な アピールポイント	改善後のイメージ
14) りんくう周辺 エリア	りんくう周辺	水質の改善を実感でき豊かな生態系とふれあえるダイビングスポット ボランティアダイバーの参加による海底環境調査の実施により、住民の環境改善意識の向上を図る。調査結果を基に藻場造成事業を行う。 海に親しめる公園 公園面積60.4ha 家庭排水やごみ流入量の減少 イベントを通じ住民に大阪湾の環境の現状を知ってもらい、海岸清掃や稚魚放流等を通じて環境改善意識の向上を図る。 閑空護岸に造成された藻場等豊かな生態系の保全 生物環境保全のシンボルの位置づけ。周辺海域への魚介類のしみ出し効果が期待される 山川海を通じた生態系の保全 植林等の活動を通じた住民の環境改善意識の向上。

表-2(5) 大阪湾再生行動計画のアピールポイント

地元住民との連携・協働などの新たな施策手法に関するアピールポイント

エリア	主な アピールポイント	改善後のイメージ
泉南海岸エリア	榎井川河口部	家庭排水やごみ流入量の減少 イベントを通じ住民に大阪湾の環境の現状を知ってもらうと共に、海岸清掃や稚魚放流等を通じ環境改善意識の向上。 きれいな水の流れる榎井川 流域の生活排水対策の進展と相まって、榎井川橋でのBOD20mg/Lが10mg/Lにされ、環境基準を達成。
	男里川河口部	家庭排水やごみ流入量の減少 イベントを通じ住民に大阪湾の環境の現状を知ってもらうと共に、海岸清掃や稚魚放流等を通じ環境改善意識の向上。
	福島海岸	自然的な砂浜、自然とのふれあいの場の確保、清掃等の市民活動の場（アドプト制度） 海を眺め、触れ合える海岸延長約0.8km
	淡輪箱作海岸	ごみのない美しい海岸線の確保、清掃等の市民活動の場 環境学習の場 磯浜における生物観察等の環境学習を通じて、大阪湾の海岸整備の目的等の理解や環境意識を向上。
	せんなん里海公園	海に親しめる公園 公園面積61.8ha 家庭排水やごみ流入量の減少 イベントを通じて住民に大阪湾の環境の現状を知ってもらうと共に、海岸清掃や稚魚放流等を通じた環境改善意識が向上
	長松海岸	自然海岸の保全 残された自然海岸の保全 ごみのない美しい海岸線の確保、清掃等の市民活動の場
	深日漁港、小島漁港	都市住民と地元住民のふれあいの拠点 魚介類の即売場、遊歩道等都市住民と漁村とのふれあい拠点として多くの住民が漁港に訪れる。
	(阪南市地先、岬町地先)	藻場の造成、魚介類の産卵、稚魚の成育 藻場、餌料礁、稚魚育成礁等計画的に配置された増殖場12haの整備
紀淡海峡周辺 エリア	由良、成ヶ島	漂着ごみの減少 大阪湾流入河川からの漂着ごみが減少する。
(大阪湾全体)		生態系バランスの健全化を通じた資源量の回復 マコガレイ等の多様な生息環境を必要とする魚種と、底生魚類の漁獲の増加 海底堆積ごみの除去による底生生物の生息環境の保全 ポリ袋や木くずなど年間約2,000m ³ を回収。今後、回収量の増大を図り、海底ごみの減少を図る。

6 . 実験的な取り組み

現段階では、施策としては確立していないものの、今後の大阪湾再生に向けた実験的な取り組みの例として、以下の取り組み等を進めていく

- 大阪湾の汚濁メカニズムの解明
- 効率的・効果的改善手法の検討
- 広域的な取り組みの展開
- 市民、NPO、学識経験者、漁業者等との連携
- 市民へのPRと参加機会の提供
- 環境改善技術・産業の集積
- DBF方式の海洋レーダによる観測

大阪湾再生推進会議が行った大阪湾の再生のための技術提案募集結果（陸域関連の技術17件、海域関連の技術70件、海域・陸域に共通する技術23件の計110件の新たな技術）の応募を得た

今後は、これらの技術を活用した再生に向けた取り組みを進めていくこととする

施策の推進に向けて、必要となる新たな制度改善等についても適宜検討、提案を進めていく

・ 今後の取り組み

1 . 行動計画策定後のフォローアップ

本行動計画の推進に当たっては、国、地方公共団体の連携が必要なことから、引き続き、大阪湾再生推進会議等の場において、行動計画の進捗状況についてフォローアップを行い、取り組み状況の的確な把握と、その着実な実施に努めるとともに、新たな知見やモニタリング結果なども活用しながら、必要に応じ、本行動計画を見直すこととする

下記の項目について、今後積極的に検討を進め、大阪湾再生推進会議とあわせて、市民・住民・NPO、学識者、企業との連携と協働による推進体制づくりを進めながら、大阪湾再生の着実な推進に努めるものとする

- 施策の計画から実施にかけて推進会議に加え市民・住民・NPO等との連携
- 実験的な取り組み、技術開発の支援、補助
- 行動計画の進行管理

2 . 「海の再生」としての「大阪湾再生」

本行動計画に基づき、大阪湾の再生を図ることとなるが、京阪神都市圏において、これと同時に進められる都市再生プロジェクトや、その関連施策等との連携・調整を図り、それぞれの地域のもつ個性、特性を生かしつつ、相互に連携した多様性のある大阪湾地域として、総合的に、豊かで魅力ある、自然と共生した世界に誇れる都市としての京阪神都市圏の再生に取り組むことが重要である

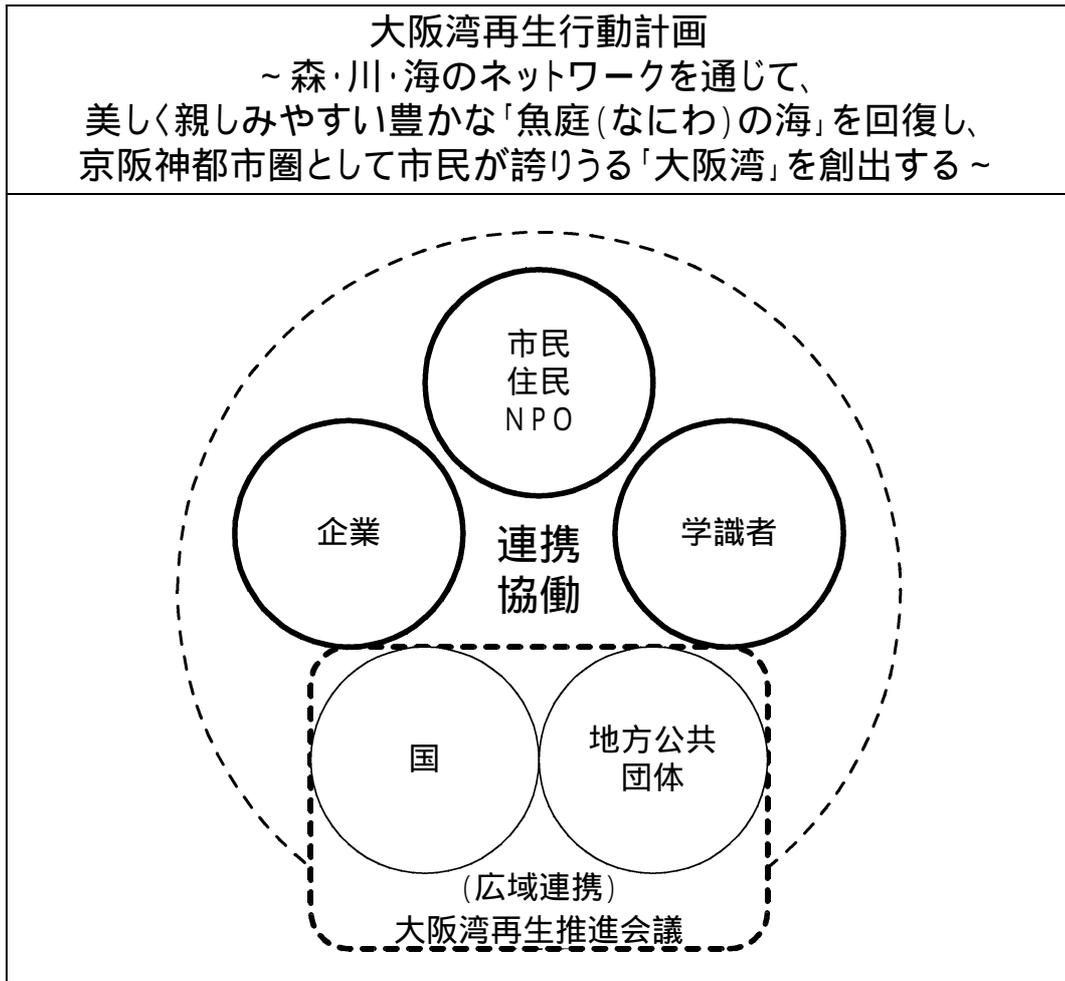


図-3 推進体制図(イメージ)

【大阪湾再生推進会議】
 都市再生本部事務局、国土交通省、農林水産省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、
 兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、神戸市、(財)大阪湾ベイエリア開発
 推進機構